

「地域で活躍する女性たち」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年11月22日(日) 13:00~15:15
2. 場所：四国放送テレビスタジオ
3. 登壇者
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長 武井佐代里
株式会社ハピキラ FACTORY 代表取締役 慶應義塾大学大学院施策・メディア研究科特任
助教 正能茉優
B&B On y va & Experience/旧：カフェオニヴァ 齊藤郁子
Bilton Flower Design フローリスト ビルトン育代
NATAN 葡萄酒専門店経営 井下奈未香

(プログラム)

1. 開会挨拶及び施策説明
「今後の地方創生の方向性」について
武井佐代里
2. 講演①「持続可能な暮らし方・働き方」 齊藤郁子
講演②「イギリスから家族でUターン！～今は日本で子育てと経営～」 ビルトン育代
講演③「ゼロからつくるワイナリー構想～ワインづくりと心の支援～」 井下奈未香
3. パネルディスカッション 「地域で活躍する女性たち」
ファシリテーター 正能茉優
パネリスト 齊藤郁子／ビルトン育代／井下奈未香

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶及び施策説明

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「将来にわたって活力ある地域社会の実現」と「東京圏への一極集中の是正」を目指し、地方創生に取り組むこととしています。

女性活躍の推進の一環として、地方自治体によるSDGsの達成に向けた、優れた取り組みを、「SDGs未来都市」として選定・支援するとともに、その中でも特に先導的な取り組みについて、財政的な支援を行っています。

また、地方へのUIターンによる若者・女性等の起業や就業、地方において現在職に就いていない女性・高齢者等の掘り起し等を推進するため地方創生推進交付金による支援も行

っています。女性の活躍の形は様々ですが、仕事・地域・家庭で女性が輝くことができるということは、地域の魅力に大きく関わります。女性が活躍できる環境づくりのため、国として今後も取り組んでいきます。

2. 講演①「持続可能な暮らし方・働き方」

2003年から時折訪れていた徳島県神山町で、2013年に古民家カフェを始めました。東日本大震災のあと社会不安が蔓延するなか「社会を批判するのではなく、小さなモデルをつくろう」と決めました。カフェには5つの特徴があります。1つ目がスタッフ全員での研修旅行、2つ目が週休4日営業などの働き方改革です。3つ目が薪でサービスを利用しただく薪通貨、4つ目がくじ引きで長テーブルにつき食事をする「みんなでごはん」、最後は経営の工夫です。このように少しずつ持続可能な暮らし方・働き方へと向かっていき、自分が心底大好きなことに没頭する時間を作ることができるようになりました。そこから個人プロジェクトとして1組限定のお客様がゆったりと神山に滞在し、特別な体験ができる宿ビジネスを模索中です。

2. 講演②「イギリスから家族でUターン！～今は日本で子育てと経営～」

イギリスから家族でUターンし徳島で起業しました。4歳のころ花好きの祖母の影響で花屋になると決めました。15歳で花屋のアルバイト、東京の大手花屋に就職しました。その後30か国を回り26歳のときイギリスで結婚、出産しました。開業時は双子が1歳半だったため、生花ではなく管理しやすい造花とドライフラワーの専門店にしました。店内は本来の花屋のイメージとは違う私独自の世界観を演出しています。完全予約制で、コロナ後はテレビ電話を利用した販売もしています。大事にしているのはお客様と自分との満足度です。中学時代に貧困問題を知り、花の報酬でその問題を解決しようと決めました。回った世界の国が後進国だったのはそのためです。花で世界を平和にすることを人生の使命としています。フェアトレード商品開発プロジェクトも行っています。自分が自分として生きられることに感謝し花を作り続けています。

2. 講演③「ゼロからつくるワイナリー構想～ワインづくりと心の支援～」

ひとり親デビュー後、ワインバーへ勤務し、ワインへの道へ向かいました。ソムリエの資格を習得しました。「ワインづくり」と「心の支援」の組み合わせは、人生の集大成に気づいたことに始まります。ワインを通してチャリティーに参加したかったのです。オーガニック農業、社会復帰支援を行うイタリアトスカーナ州のブリケッラ農園に出会い、娘を連れてイタリアに移住する計画を立てていました。そこで三好市出身の夫と出会い、徳島で生活することを決断するときには娘たちの選択を重視しました。徳島では何もない状態から手作りで始めました。開墾し畑を広げていきました。このワイナリーで、私が大切に思っている心の助け合い事業をあわせて行いたいと思います。無理をせず、できることを

一生懸命に、1日1歩だけでも先にと頑張っていきます。

3. パネルディスカッション 「地域で活躍する女性たち」

①地域で起業することを決めたきっかけ

齊藤：

サラリーマン時代から身近で小さくても、腑に落ちるような気持ちになる暮らしを作りたいかったです。東日本大震災をきっかけに、そこにあるエネルギーを使った暮らしをしたいと思いました。

ビルトン：

地球上どこでも良かったのです。ビザがあればどこでも起業できます。徳島に決めた理由は母のご飯でした。子どもを持つと自営業なら家で仕事ができます。

井下：

人生の目的として社会貢献のできるワイナリーで働きたいと思いました。子どもを守る責任と自分の夢を守る責任で融通がきくのは自分です。夢をお守りにしてがんばっています。

②地域への溶け込み方と女性だからこその利点

井下：

社会がもっている女性のイメージから外れると興味を持ってもらえたのはありがたかったです。婦人会に参加して料理を教えてもらいました。ワインの仕事では女性だからという感覚はありません。

ビルトン：

人脈がなかったのですが気になりませんでした。ただ花が造りたかったのです。自分が出前に出るより商品だけ前に出てほしいです。女性にだけ融資の年利を下げるよりも、女性特有の妊娠出産への支援、例えば個人事業主に対し出産時の休業補償などのサポートがほしいです。

齊藤：

男性のように体力がないのでゆっくりと丁寧な進み方ですが、見守ってもらえています。新しいことをするのは女性ならではのものです自由な発想ができます。

③地域との関わり方の課題や提言、困っていること

ビルトン：

花屋は肉体労働なので、出産前後、繁忙期にサポートが受けられないのが困ります。

井下：

妊娠中、畑の仕事をしていました。妊娠出産を足かせでなく生物としての特権として楽しめる社会にならないかと思います。夫や家族のサポートはなくてはならないものです。

齊藤：

サラリーマン時代も今も男女の違いを感じることなく仕事をしています。徳島は女性の起業家が日本一多い県です。阿波女はさすがに自由です。

④起業を考えている女性にメッセージ

齊藤：

決断時は迷うものですが、自分の心の声を聞いて行動すれば、どの道を選んでも結果は同じで納得すると思います。

ビルトン：

セミナーの先生から身の丈にあった経営をと教えてもらいました。一步踏み出して自由に人生の1ページを作ってほしいです。

井下：

自分の人生は死ぬとき、自分でしか評価できません。周りの評価は気にせず、周りの人に誠実に、自分の評価で一步ずつ進んでほしいです。

正能：

勇気が出る行動を起こしたくなる前向きな言葉をたくさんいただきました。私もみなさんの言葉を思い出し、頑張っていきたいです。

以上